

『Mind Charging』

第 107 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 9 月 8 日

オリヴァー・ゴールドスミス の名言



I love everything that's old; old friends, old times, old manners, old books, old wines.

私は古いものならなんでも好き。古い友だち、古い時代、
古いしきたり、古い書物、古いワイン。

この言葉のまま『古いもの＝時間をかけて作ってきたもの』ということで、完成度の高さや深い味わいなどがあるから好き(良いもの)であるというようにも捉えることができますが、“なんでも好き”という言葉や、例に挙げるものの多さや、“古いしきたり”というイメージ的に好きなものとは言えないようなことを挙げているところから、『実は皮肉なのかもしれない』とも捉えられる面白い名言です。

この挙げられている“古いもの”中で私が注目したものは『古い友だち』です。ここでいう“古い”とは、友だちとしての付き合いが長いことを指しているということはあるかもしれませんが、人との関りの中で、初対面から完全に意気投合という形もありますが、いずれにしても出会って互いを認識してから様々な出来事や、その時の振る舞いなどを見ながら関係は深くも浅くもなっていくます。浅ければそんなに長く友人関係を続けることはないでしょうし、時間が長くなればなるほど互いに見たくない(見られたくない)ものも見えてきます。それでも続いているということは『合っている』ということであり、カバーし合える絶対的な信頼関係がある仲間であるとも言えます。アップデートを繰り返しながら、高級ワインのように熟成された深みのある自分に成長し、そんな仲間を正智深谷で見つけられたら最高ですね！(編集委員：入試広報室 鈴木)

オリヴァー・ゴールドスミス(英語: Oliver Goldsmith, 1730 年 11 月 10 日? - 1774 年 4 月 4 日)は、英国の詩人、小説家、劇作家。アイルランド生まれ。主著に小説『ウェイクフィールドの牧師』(The Vicar of Wakefield)、喜劇『お人よし』と『負けるが勝ち』、長編詩の『旅人』、詩集の『寒村行』(The Deserted Village)がある。アイルランドで出生。父は牧師。

(Wikipedia 参照)